

第1学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 数を唱える、数える、具体物（ブロック）を動かすなどの活動意欲が高い。
○ 1～10までの数や、数の大小などの概念が身についている。
- 課題** ▼ 5より大きい数になると、数え間違いなどをする児童もいる。
▼ 計算や、違いを比べる活動が苦手な児童もいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 数字や数の概念を確実にする。
- ◇ 簡単な計算を間違えずにできる。
- ◇ 問題の意味を正しくつかめる。
- ◇ 自分で考えて、答えを出す。

具体的な改善策

- 授業の導入時に前時の復習をするなど、繰り返し学習できる工夫をする。
- 授業、家庭学習等で、計算問題を解く機会を多く設ける。
- 問題文の音読や、具体物、半具体物の操作で、問題の意味を正しくとらえる。
- 隣同士やグループ、クラス全体で、自分の考えを交流する場面を設ける。
- 自分の考えを、図や言葉でノートにまとめる活動を取り入れる。

達成目標

- 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付ける。
- 数の数え方や計算の仕方を考える力、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。
- 算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。